**総合技術研究会2017東京大学**　**参加報告**

共通機器部門（情報基盤機器管理班）・技術主任　　三原　修

**1.**　はじめに（目的等）

隔年で開催されている表題の研究会が，今年度は東京大学で開催された。今回，この研究会に講演・シンポジウム聴講，口頭発表，施設見学（技術交流会）等で参加したため，以下報告する。

**2.**　期間・場所

期間： 平成29年3月8～10日 （3日間）

場所： 東京大学 本郷キャンパス （東京都文京区）

※ キャンパス内におけるプログラム別の会場（技術交流会以外）はそれぞれ下記の通り。

1. シンポジウム，ならびに開会式・特別講演： 安田講堂
2. 口頭発表・ポスター発表： 工2号館 （他，工3・8号館）

**3.**　参加者

大学・高専・共同利用研究機関等に所属する技術職員および企業関係者等 （911名）

**4.**　研修内容

※ 研究会の詳細は <http://tech2017.engineers.u-tokyo.ac.jp/> を参照。

（1日目）

　・ 技術交流会（第10技術分野： 歴史的建造物技術交流会）での施設見学

（2日目）

　・ シンポジウム「技術研究会の歴史とこれから」の聴講

　・ 開会式，ならびに特別講演「技術の粋を集めて挑む重力波の観測 ～KAGRAプロジェクト～」（東京大学宇宙線研究所長　梶田隆章特別栄誉教授）の聴講

　・ 各分科会口頭発表の聴講とポスター発表の見学

（3日目）

　・ 各分科会口頭発表の聴講（＋自身の口頭発表； 終日，第5技術分野に参加）

**5.**　まとめと感想

今回の研究会は，東京大学総合技術本部の主催により盛大に開催された。節目の大会として，開会式・特別講演の他，研究会の歴史を振り返るシンポジウムが安田講堂で挙行されるなど，その中に参加でき，かつ，研究会全体を通して貴重な経験をさせて頂けたこと感謝したい。

以下，参加した主な各プログラムについて，それぞれまとめと感想を述べる。

**5.1**　開会式・特別講演

開会式では，五神真総長と小関敏彦副学長（総合技術本部長）がそれぞれ挨拶された。また，特別講演では，2015年にノーベル物理学賞を受賞された梶田隆章先生により重力波観測の研究について紹介された（なお，平成28年11月29日に開催された広島大学講演会で，ニュートリノの小さい質量の発見について梶田先生の講演を拝聴していたため，研究の最新動向について理解を深めることができた）。先生方の挨拶や講演の中では，研究を進める上では関係する技術職員の協力が欠かせなかったこと，さらに東大ではそのような技術支援の必要性から人員削減計画を凍結（それと共に，教職員間での連携を強化）したことも触れられていて，強く印象に残った。

**5.2**　シンポジウム

午後からの開会式に先立って午前中に，特別企画として本研究会の歴史を振り返り今後の運営について討論するためのシンポジウムが開催された。パネリストの方々による過去の研究会（開催実績など）の紹介の後，事前に実施されたアンケートの結果も踏まえて会場全体で討論（質疑）が行われた。今後の研究会開催については現状維持の希望が多数であるが，専門性の特化や所属機関へのフィードバックを積極的に行うべきという意見がある一方で，初めての発表参加者（特に20代の職員）に対するハードルが高い（このままでは高齢化を招く）ためもっと参加しやすくなるように配慮すべきという意見もあり，是非そのようになって欲しいと感じたところである。

**5.3**　口頭発表・ポスター発表

口頭発表とポスター発表では，多岐にわたる技術分野の発表を垣間見ることができた。最終日は第5（情報・ネットワーク）技術分野の口頭発表を終日聴講し，さらに自身も「スマートフォンからの入力に対応した履修希望科目登録用送信フォームの構築」と題して口頭発表を行った（その質疑では問題点の指摘もあり，今後の改善に対して参考になった）。

**5.4**　技術交流会（施設見学）

本会（開会式等）開催前日には，一部の技術分野においてそれぞれ独自に技術交流会が開催された。今回は（個人的にも興味があって），第10（建築・土木・資源開発系）技術分野の「歴史的建造物技術交流会」に参加した。建築を専門にされる職員の方々によって，本郷キャンパス内の建造物等について詳しい解説があり，理解を深めることができた。さらに，交流会の中では，現在改修・増築工事中の総合図書館（設計施工： 清水建設）の現場見学も含まれていて，自動化書庫として完成予定の巨大な地下空間など，普段立ち入ることのできない場所の中で，施工の様子や温度・湿度管理された状況も体感できた（参加者の多くが土木・建築・施設管理系の技術職員の方々ということもあって，この見学の時に多くの質問がなされていたのが印象的であった）。交流会の最後には，工1号館の内部（建築学専攻エリア）に案内して頂き，（旧外壁を残して増築された）図書室や製図室，雰囲気の素晴らしい会議室等も見学できて，大変貴重な機会を得られた。

今後また立ち寄った際には，キャンパス全体をゆっくり散策してみたい。